

石川地価動向

半年後悪化か

宅建協など調査

石川県不動産鑑定士協会（金沢市）と同県宅地建物取引業協会（同）は、県内の土地や不動産の動向調査を初めて実施し二十七日、結果を公表した。地価の「上昇」から「下降」を引いた四月一日時点の地価動向DIは、住宅地でプラス

○・五^{ポイント}、商業地は同二三・六^{ポイント}だった。

半年後の十月一日時点は、住宅地でマイナス九・二^{ポイント}、商業地もプラス二・三^{ポイント}と悪化を予測する。新幹線開業効果の落ち着きや、海外経済の先行き不透明感が悪化予測要因という。

一方、不動産取引の「増加」から「減少」を引いた四月一日現在の不動産取引市場DIは、土地・新築一戸建てがプラス三・九^{ポイント}だったのに対し、マンション

は金沢市内に適地が少なくマイナス二一・三^{ポイント}と低調だった。中古住宅もマイナス〇・六^{ポイント}だった。

十月は土地・新築一戸建てがプラス二・三^{ポイント}とやや悪化する一方、物件が増えるマンションはマイナス一三・七^{ポイント}と改善、中古住宅は政府の中古住宅流通促進策などの効果でプラス一・九^{ポイント}に改善の見通し。

調査は四月に県宅建取引業協会の九百六十六会員に実施。有効回答率は21・9%だった。（上田融）